

# 辺野古に基地を作るな！ 公有水面埋め立てを許さない！ 5・26集会&デモ

辺野古に基地を作るな！公有水面埋め立てを許さない！5・26集会&デモ

5月26日(日)1:15PM 開場／1:30PM 開始／デモ出発：4PM  
千駄ヶ谷区民会館・集会場(渋谷区神宮前 1-1-10)

資料代：¥500

沖縄からの訴え：東恩納琢磨さん(ひがしおんな・たくま 名護市議)

「普天間基地は市街地の真ん中であって危険。だから人口の少ない辺野古に移す。その住宅地を避けるには、海を埋め立てて滑走路をつくるしかない——。」その論理をカモフラージュに使った、巨大な新基地の建設。1966年から隠し持っていたシナリオと言われている。これが普天間移設・辺野古基地建設のドス黒い野望である。

橋本首相・モンテール駐日大使(いずれも1996年当時)の両者で合意した当時は普天間駐機ヘリコプターの着陸帯＝「ヘリポート建設」だったが、いつのまにか1,800mの滑走路2本という巨大規模の空港建設に変貌。移設して基地建設すれば滑走路建設費用だけで3,000億円。維持費用を加えれば1兆円をはるかに超える。なんと巨額な国民の税金の使い方だろう！また、辺野古沿岸部の埋め立てには、土砂が大量に必要だ。沖縄県内からだけでなく、九州や四国からの調達も策謀中だ。辺野古にあるキャンプ・シュワブ陸上部のほか、1,700万m<sup>3</sup>を購入して運搬、と報道されている。その費用だけで1,300億円。

涼しい顔で、他人事のように「移設しなければ、普天間を固定化することになる」という人もいる。だが、沖縄にとっては、辺野古の新基地建設こそが基地の固定化ではないか。

辺野古の基地建設を許してしまえば、沖縄県民はさらに軍事基地の重圧下に置かれる。MV22 オスプレイも辺野古周辺上空を飛ぶ。墜落や落下物による危険と騒音に、辺野古・久志・本部【もとぶ】は直接さらされる。隣接する周辺市町村も危険だ。



▲米軍・キャンプ・シュワブ

オスプレイにも辺野古基地にも、「オール沖縄」が反対だ。埋立土砂の運搬は多数の住民の抗議行動で立ち往生し、建設は不可能となるだろう。——正義は、反対している住民の側にこそある。

主催：辺野古への基地建設を許さない実行委員会 首都圏の市民団体など39で構成。

連絡先：東京都千代田区三崎町 2-2-13-502 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック気付／電話：090-3910-4140